



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU  
会津ワイズメンズクラブ  
CHARTERED ON FEB. 1993



2018～2019 年度主題

国際会長 Moon Sang Bong(韓国) 「私たちは変えられる」  
アジア地域会長 田中博之 (東日本区) 「アクション」  
東日本区 理事 宮内友弥 (東京武蔵野多摩) 「為せば成る」  
北東部 部長 涌澤 博 (仙台青葉城) 「チャンス到来 我ら北東部から世界へ」  
会津クラブ会長 青山孝男 「力の限り この地の塩として！」

<No.286 会津通信>  
2019年6月11日発行

会長 青山孝男  
副会長 高橋眞美  
書記 高橋真人  
会計 高橋真人

◇6月の聖句◇

しかし、私は言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。

マタイ福音書 5章 22

節

6月例会

日時：2019年6月11日(火)19:00～

場所：若松栄町教会

司会：高橋 京子 ウィメン

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング 一同
3. 会長挨拶 会長
4. 連絡報告
5. 聖句朗読 高橋 カメン
6. 食前感謝
7. 歓談 評価(一年の活動)
8. Happy Birthday! Happy Anniversary!  
該当なし
9. 閉会点鐘 会長

<5月例会出席状況>

在籍者 5名 ゲスト 0名

出席者 5名

\* 例会出席率 100%

あかべこ 5,000円

18-19年度合計 23,000円

《例会》

毎月第2火曜日 19:00～21:00  
若松栄町教会 (☎0242-27-3944)

強い義務感を持つ 義務は

移動弱者のための、方法を！

高橋 京子ウィメン

80歳を越えた高齢者の運転事故が報道されるたび「又か!」と思う。私も80歳を目前にして、視力を始めいろいろな身体能力の衰えに加え判断力、決断力なども鈍っていることを実感する。他人事ではない。

自分を客観視する力も鈍くなっている。と思っても、まだ出来るだけ社会参加もそれなりにしたい。

私の住む地域でも、ひとつの試みをしている。子育て中の親子と高齢者(男女・障害・年齢の制限なし)がともに集まって遊んだり、話し合ったり(ほとんど日常的な経験談など)一緒に作ったおやつを囲んで、お茶を飲む、教える人、教えられる人、聞く人話す人どちらかが一方的ではなく、皆がそのどちらにもなる。集まった子どもたち(ほとんど0歳～3歳)は、皆で見る。(保育経験者ボランティアスタッフ付き)今までは、まだ10回足らずの実施だが、参加者は少しずつ増えてはいるものの見えてきた問題は、高齢者も乳児



連れの親子にも移動手段の解決である。車を自分で動かさなければ、高齢者の力を引き出す社会参加も孤立しやすい。育児中の若い人のストレス解消もできない。長生きが罪つくりな悲劇になってしまう様に、平和を目指す日本が戦う機器に予算を使うのではなく、移動弱者のため、ドローンなど科学的な新しい知恵も実用化されて来る今、国家的な研究や努力が欲しい。



(次回は青山会長)

## 6月報告(東日本区大会写真集より)

### パナーセレモニー



クラブ活動報告(涌澤部長)



数年休んでいた十日市での出店

## 会津だより

仙台起点の我が人生の筋道

高橋 カメン

この宗教的なグループのリーダー、栗原基は僕の母、吾妻千賀の伯父。

栗原基は吉野作造の入信をめぐってこのように述べている。「教会通いの青年にして、宗教に興味があるが故に、かえって世事に無関心であり、ひたすら自己陶醉に浸っている人もあるように見受けられるが、吉野君は、キリスト教を奉ずるようになったために、自己を離れて、多くの人々の利害関係に目覚め、将来社会問題や政治問題に没頭する大事な地盤を作ったように思う」

ドイツ留学から帰国した宇野弘蔵氏が来仙。父高橋八郎は、マルクス資本論の特別講義を勝手に掲示板に予告し、「誰の許可を受けてこの講義予告を出したのか」との叱責に「いや、だれの許可も受けていないが、これを聞きたいのが何人もいる。何でもかんでもやってもらわなきゃならない」と学内特別講義を開催。宇野先生に弟子入りする学生多数。

八郎は生活費、校納金など殆どを農民運動に注ぎ込んだ。「オレは卒業証書は要らねえ」と卒業式を欠席。それでも証書は茨城県水海道近くの三妻村の実家に届いた。未納だった学費はすべて宇野先生が払ってくださった。

八郎は居って候の下宿生活を止めて自ら下宿屋を開き、そこに寄宿した中国南方の革命軍の留学生たち(東北帝国大学)6、7名との出会いが八郎の国際感覚を養った。「この連中と言葉は通じないが、毎日同居して一緒に寝起きして飯喰っていますから、彼らとつき合いをしているうちに-蒋介石の中国や、孫文の革命の話のうちに、彼らがいかに愛国心に燃えているかを知った。日本人のように教科書でうちへ帰って覚えてきたこととはまるっきり違うんだ。何千年の歴史がそうさせるんだな。学問をするということは、国をどうするかを学ぶことだということを、私は同じ飯を食っていてこの人たちから学んだ。

あの当時、支那人の留学生なんてみんなばかにしていた。どこへ下宿している連中にきいても、日本人は彼らをこばかにしやがる。そして特殊扱いするという。(チャンコロと蔑称していた)。ところがおれのところの人はまるっきりちがう。おれもこの連中からどれだけ勉強したか。これが後々になってクスリになったなあ。それから私の他国民を見る目がまるっきり違ってきた。兵隊たちたちの乱暴するのを見ても、それから征服するとか、押さえつけていれば領土を取ったようなもの、それで勝ったように思う。そういうものじゃあない。人間と人間が、どうしてつき合いが出来て、心と心が通いあって相共にやれという気持ち、これを留学生たちから学んだ。八ヶ月以上一緒にいたかな。(以下次号へ)

★ 今後の予定★

7月例会 7月9日